

双尾の蜥蜴

フタマタ（双尾）の蜥蜴を見れば、思うことが叶うと言ったり、これを捕らえて来て飼っておくと、金銀が自然に集まって来るとも言います。

春彼岸前に蜥蜴を見ても、その年は運がいいなどと言いますが、それが青蜥蜴では悪いとも言いました。

蜂の巣と暴風

蜂が人家の軒や屋根棟へ巣を造ると、その家が栄える前兆であると言いまして、わざわざ蜂の巣をとって来て門におく風習もありました。

人家の棟などに、大きな籠のような巣を造るのは、赤蜂という種類で、これが橋の下や、その他低いところへ巣を造った年は、暴風があると言いました。

蜂の戦争

私の子供の頃に、私の家と溪を隔て、並んでいる三軒の家の土蔵へ、同じように赤蜂が巣を造ったことがありました。秋も遅くなって、巣が充分大きくなった頃、一番端の家の巣へ、熊蜂の群が襲って来て、赤蜂の群を喰い殺して、なかの子を啜え出して持って行ったことがありましたが、その翌日は、次の家へ襲って来て、同じように全滅させてしまいました。三日目の昼過ぎ頃、私の家の巣へやって来ました。最初は二つほど熊蜂が来て赤蜂と争っているようでしたが、だんだん熊蜂の数が増えてきて、約二時ばかり盛んな戦争をした結果、赤蜂はほとんど全滅してしまいました。戦争している最中は、一つの熊蜂へ、三つ四つほども赤蜂が絡まって落ちて来ては、盛んに噛み合っていました。巣の下の地面が、赤蜂の死骸で赤く染まったように見えました。巣の中からは、熊蜂が子を啜え出しては、どこともなく運んで行きました。時々一つぐらい赤蜂が帰ってきてもたちまち喰い殺されてしまいました。

後で、蜂の死骸を検めますと、赤蜂が二〇に対して、熊蜂の死骸は一つぐらいの割合でした。

またある年の秋、屋根裏に集まっている小蜂を、熊蜂が捕らえるのを見たことがありましたが、捕らえたと思うと、一度地上に落ちてきて、ふたたび提げ上げて屋根の上へ持って行きました。

蜂の巣のとりかた

秋、彼岸が過ぎると、蜂の巣が実ると言って巣をとりました。

へボと言う、蛇ほどの蜂や、熊蜂は、地下に巣が造ってあって、そこには幾層にも重なった巣があって、大きな巣になると、子が一斗あったなどと言いました。

これらの巣をとるには、夜、穴の傍で麦藁などを燃やしておいて、鍬で掘りましたが、なかから蜂が飛び出して来て、羽を焼かれてしまうのですが、人間の方も、かならず刺されるものでした。それが煙火を使ってとるようになってからは、雑作なくとれました。穴の口に、筒花火を向けて、火を全部穴の中へ放出して置いてから掘ると、蜂は全部麻酔剤にかかったようになっていました。

昼間、竹竿などの先に麦藁を結えつけて、それに火をつけて巣の近くに差し出したりして悪戯をすると、その竹竿を蜂が伝って来るものでした。

蜂の巣の探し方

秋、蛙の肉やバッタなどを、棒切れの先につけて持っている、どこからともなく蜂がやって来て、その肉を食いちぎって持ってゆくので、その行方を見定めて少しずつ巣へ近づいて行くものでした。そのとき、蜂の体へ、真綿をちぎって引っかけてやって、目印にする方法もありました。

熊蜂などの、体の大きなものは、澄んだ空を凝視めて蜂の去来する姿をみて、巣に近づいて行きました。

眼白を殺した蜂

子供の頃、眼白が熊蜂に喰い殺されたことがありました。それは眼白を入れた籠を、裏口に掛けておいたら、熊蜂が眼白の頸を食い切ってその肉を食べていました。私が近づくと、蜂は一塊の肉を持って逃げて行きました。